

## SPECIAL INTERVIEW

# 開館35周年、 館長が語る東京芸術劇場が 目指す未来

1990年10月に開館した東京芸術劇場は、今年で35周年。この9月にリオープンし、2026年4月には新たな芸術監督を迎える。館長を務める荻田伍氏が、劇場の果たすべき役割や目指す未来について語った。



荻田 伍  
OGITA Hitoshi

©Masa Hamanoi

——開館35周年を迎える今、どんなお気持ちですか？

東京芸術劇場は開館以来、たくさんの方々にご来場いただき、池袋の賑わいの拠点、芸術文化発信の拠点であり続けてきました。おかげさまで35周年を迎えられたことは大変うれしく、深く感謝しています。お客様はもちろん、豊島区の皆様、東京都や東京都歴史文化財団など、多くの方に支えられてきました。そして野田秀樹芸術監督のもと、よい作品を届けるため、さまざまな活動に取り組む人たちがスタッフが一心に頑張ってきたのです。

——館長に就任されてから10年、とりわけ印象深い出来事は？

近年においては、コロナ禍で休館せざるを得ない時期もありました。ようやく再開できた日、お客様の喜んでいらっしゃる姿がとても印象に残っています。公演を心待ちにされていたことが伝わってきて、芸劇の取り組みをより充実させていかなければならないとの思いを新たにしました。——東京都にとって、これからの芸劇はどのような存在であるべきでしょうか？

公共劇場だからこそ担うべき役割もあります。東京都では、「東京文化戦略2030」を策定し、芸術文化を活性化させることで東京の魅力をより高めていこうとしている最中です。芸劇も「芸

術文化で躍動する都市東京」を目指し、東京のみならず、日本を代表する芸術文化施設として、多くの方々に、芸術が身近にあることの素晴らしさを感じていただきたいと思います。

——地域とのつながりや池袋という街との関係性について、どう考えていますか？

街に彩りを与えることができるような取り組みにも力を入れていきたいですね。芸劇は、池袋駅という都内でも屈指のターミナル駅の眼前に位置しています。その恵まれた立地に、多様な施設を備えることができています。オーケストラの演奏を中心としたコンサートホール、本格的な演劇・ダンスなどを上演するプレイハウス、公演内容に応じて自在に舞台形式を可変できるシアターイースト、コンパクトながらプロセニウムを備えて風格を保つシアターウエスト、大小の展示ギャラリーやリハーサル室。クラシックコンサートや演劇・ミュージカルなどの公演の場であり、絵画・書作品等の美術展示と発表の場としても機能しています。これまでに、豊島区とも協働し、多彩な事業を実施してきました。今後も地元にも愛される劇場として歩み続けていきたいと思っています。

——芸劇が未来に果たすべき役割は何だと思いますか？

未来に向けて大切なのは、人材育成です。若

い世代や子供たちが、観客側、創造側を問わず、芸術文化の担い手になっていくことを目指し、劇場を運営していきます。芸劇では、0歳児から鑑賞できるコンサートも開催してきました。そういった場が感性を養うことにつながればうれしいですね。より多くの若い方々に足を運んでいただきたいですし、芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインドのような育成プログラムも一層充実させていきたいと思っています。

2026年4月から、舞台芸術部門の芸術監督に岡田利規氏（2025年度は参与に就任）、音楽部門の芸術監督に山田和樹氏が就任します。岡田氏は、その革新的な創作活動が国際的に注目を集めてきました。舞台芸術部門のリーダーとして文化の創造と発信を推進し、世界の劇場と肩を並べる発信力を持つ劇場を目指します。音楽分野では、日本を代表するマエストロ、山田氏を迎え、コンサートホールを活用して、音楽公演の国内外への発信力をさらに向上させていきます。

私自身、劇場でさまざまな公演を鑑賞するたび、大きな感動を体験してきました。芸術文化は、人の心を豊かにすると確信しています。皆様にかけがえのない時間を過ごしていただければ、劇場スタッフ一同、心よりお待ち申し上げます。

取材・文：編集部



35 東京芸術劇場  
Anniversary Tokyo Metropolitan Theatre

企画編集・発行／東京芸術劇場 事業企画課 広報営業係  
編集／noi株式会社（殿井悠子、塚原沙耶） 校閲／朝日新聞総合サービス株式会社（AGS）出版校閲部  
表紙写真／撮影：濱津和貴 撮影／TK（P06）、Masa Hamanoi（P14） デザイン／REVEL46（志村正人）  
印刷製本／株式会社技秀堂 ©東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

## INFORMATION

### 〈鑑賞サポート〉について

東京芸術劇場では、さまざまなお客様にお楽しみいただけるよう、一部公演で鑑賞サポートを実施しています。対象公演や詳細は、「鑑賞サポート」ページをご覧ください。

詳細 ▶ <https://www.geigeki.jp/accessibility/information/>



掲載情報に変更が生じる場合がございます。最新情報は、劇場や各主催者のWEBサイトなどでご確認ください。次号の発行は2026年1月1日を予定しています。